

屋島 獅子の霊巖（ししのれいがん）

獅子の霊巖（字義どおりには「ライオンの頭部の尾根」展望台からは、屋島で最も感動的な眺めのいくつかを楽しめます。急勾配の尾根の下には高松港があり、そこからフェリーが瀬戸内海の島々へと向かいます。市街は内陸方向に、由緒ある栗林公園を越えて地平線に向かって広がります。獅子の霊巖の向かい、市街の反対側の端の先には青々とした五色台がそびえ、かなたに瀬戸大橋も眺めることができます。海の方に目をやると、双子の島である女木島と男木島と、その向こうに「アートの島」である直島を見つけることができます。夕日によって印象的な色合いのパノラマが生み出される夕暮れ時と、市街と島々の照明がきらきら輝いている有様を下の方に眺めることのできる日没後に、とりわけ素晴らしい眺望を得ることができます。

「獅子の霊巖」は崖の下に巨大な岩から命名されています。唸りたてるライオンの頭に似ていとされるこの岩は、有名なこの地の伝説に出てきます。その物語では、四国遍路八十八ヶ所の創始者と見なされている仏教僧空海（774－835 年）が、近くの屋島寺の本堂をたった 1 日で建設しようとした。普通の人には不可能な作業です。しかし、空海は 1 日の長さそのものを延ばそうと決意しました。空海は獅子の岩の上に立ち、手を扇に見立てて沈みゆく夕日に向けて振り動かし、寺院のお堂が完成するまで地平線上に留まるよう懇願しました。